

令和7年度

第1回 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

－総合戦略について－



令和7年7月22日（火）
於：議会棟2階大会議室

常総市 市長公室 常創戦略課

総合戦略とは政策目標や施策の基本的方向性、具体的な施策をまとめたもの。

<まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期）の基本的な考え方>

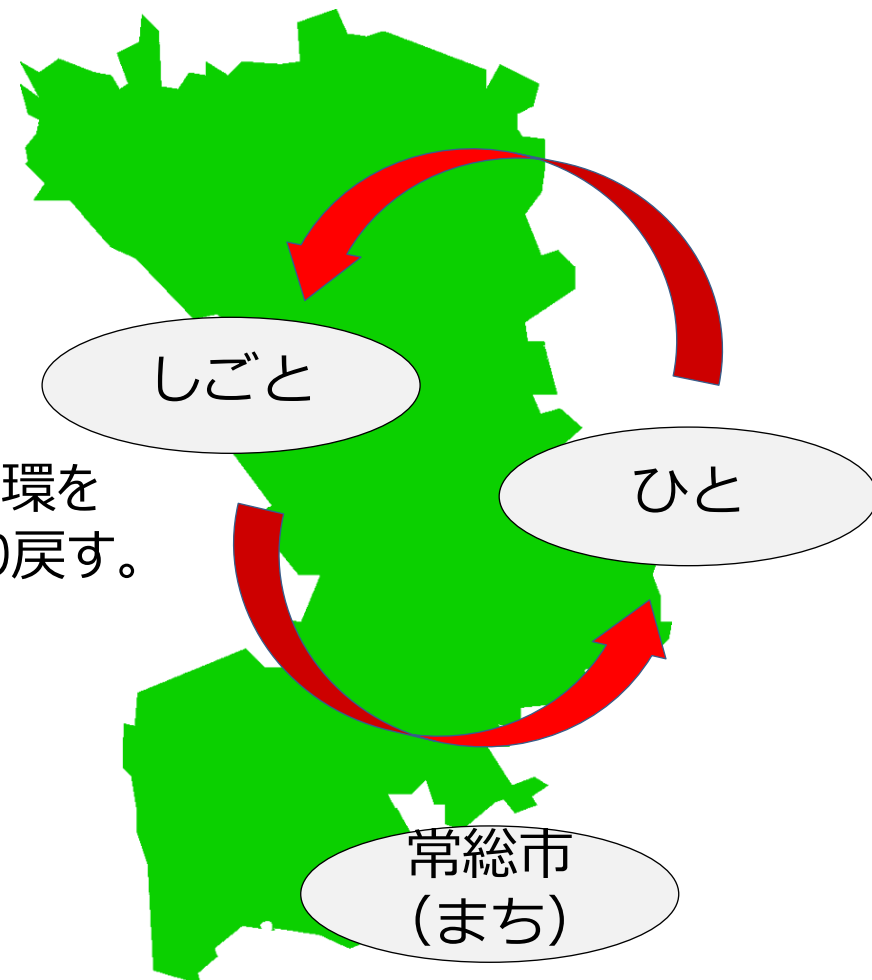
1.人口減少と地域経済縮小の克服

- ①東京一極集中の是正
- ②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現
- ③地域の特性に即した地域課題の解決

2.まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻す。

- ①しごとの創生 若い世代が安心して働ける
- ②ひとの創生 地方への新しい人の流れをつくる
- ③まちの創生 地方で安心して暮らせるようにする



総合戦略のこれまで

主体	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	
	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	
	安倍政権						菅政権		岸田政権			石破政権					
国	第1期まち・ひと・しごと総合戦略						第2期まち・ひと・しごと総合戦略						デジタル田園都市国家構想総合戦略				
	地方創生2.0総合戦略(仮称)																
	茨城県まち・ひと・しごと総合戦略						第2期茨城県まち・ひと・しごと総合戦略						第2次茨城県総合計画				
	第1期まち・ひと・しごと総合戦略						第2期まち・ひと・しごと総合戦略						第3期常総市総合戦略(仮称)				
茨城県	第1期まち・ひと・しごと総合戦略						第2期まち・ひと・しごと総合戦略						総合計画へ包含予定				
	水害で1年後ろ倒し						現行計画						★現在地				
常総市	第1期まち・ひと・しごと総合戦略						第2期まち・ひと・しごと総合戦略						第3期常総市総合戦略(仮称)				
	水害で1年後ろ倒し						現行計画						★現在地				

デジタル田園都市国家構想総合戦略(2023改訂版)の全体像

〔令和5年12月26日
閣議決定〕



総合戦略(2027年度までの5か年計画)の基本的考え方

- 「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。
- デジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、各地域の優良事例の横展開を加速化する。
- これまでの地方創生の取組についても、改善を加えながら推進する。

施策の方向

地方の社会課題解決

- ① 地方に仕事をつくる
 - ・ 中小・中堅企業DX、地域の良質な雇用の創出等、スマート農業、観光DX等
- ② 人の流れをつくる
 - ・ 移住の推進、関係人口の創出・拡大、地方大学・高校の魅力向上等
- ③ 結婚・出産・子育ての希望をかなえる
 - ・ 結婚・出産・子育ての支援、少子化対策の推進等
- ④ 魅力的な地域をつくる
 - ・ 地域生活圏、教育DX、医療・介護DX、地域交通・物流・インフラDX、防災DX等

国によるデジタル実装の基礎条件整備

- ① デジタル基盤の整備
 - ・ デジタルインフラの整備、デジタルライフライン全国総合整備計画、マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大等
- ② デジタル人材の育成・確保
 - ・ デジタル人材育成プラットフォームの構築、職業訓練のデジタル分野の重点化、高等教育機関等におけるデジタル人材の育成等
- ③ 誰一人取り残されないための取組
 - ・ デジタル推進委員の展開、デジタル共生社会の実現等

政策間連携・施策間連携・地域間連携の推進

(政策間連携)

- ・ デジタル行財政改革会議における議論の進展や、「デジタル行財政改革中間とりまとめ」なども踏まえつつ、規制改革を始めとする政策と連携しながら、一体的に推進等

(施策間連携)

- ・ 各省による重点支援や地方支分部局の活用等による伴走型支援等を通じて、地域が目指す将来像の実現を支援等

(地域間連携)

- ・ 自治体間連携の枠組みにおけるデジタル活用の取組を促進等

「地方創生2.0基本構想」(概要)

令和7年6月13日
閣議決定

【地方創生をめぐる現状認識】

1.人口・東京一極集中の状況	2.地域経済の状況
3.地方創生をめぐる社会情勢の変化	4.これまでの地方創生10年の成果と反省
<p>○厳しさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方の人手不足の一層の進行 ・若者や女性の地方離れ など <p>○追い風</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドの増加 ・リモートワークの普及 ・AI・デジタルなどの急速な進化・発展 など 	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少問題への対処開始、地方移住への関心の高まり など <p>○反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少を受け止めた上での対応、若者や女性の流出要因へのリーチ、国と地方の役割の検討(人手不足と東京への集中)、地域のステークホルダーが一体となった取組の不足 など

【地方創生2.0の起動】

1. 目指す姿 = 「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる多様性の好循環が「新しい日本・楽しい日本」を創る

①「強い」経済	②「豊かな」生活環境	③「新しい日本・楽しい日本」
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立的で持続的に成長する「稼げる」経済の創出により、新たな人を呼び込み、強い地方経済を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きがいを持って働き、安心して暮らし続けられる生活環境を構築し、地方に新たな魅力と活力を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者や女性にも選ばれる地方、誰もが安心して暮らし続けられ、一人一人が幸せを実感できる地方を創出

目指す姿を定量的に提示	<p>就業者1人当たり年間付加価値労働生産性を東京圏と同水準に</p> <p>など3つの目標</p>	<p>地域の買物環境の維持・向上を図る市町村の割合を10割に</p> <p>など5つの目標</p>	<p>魅力的な環境整備により、地方への若者の流れを2倍に</p> <p>など3つの目標</p>
	<p>関係人口を実人数1,000万人、延べ人数1億人創出</p>	<p>AIやデジタルを活用し、地域課題の解決を図る市町村の割合を10割に</p> <p>など3つの目標</p>	

2. 地方創生2.0の基本姿勢・視点



令和の日本列島改造

○人口減少への認識の変化

1. 人口減少に歯止めをかけるための取組に注力

2. 0

人口減少が続く事態を正面から受け止め、社会・経済が機能する適応策も講じる。住民の基本的な生活の維持、経済成長、公共サービス維持やインフラ整備、まちづくりなどで、民の力を最大限活かすべく、官民連携をさらに推進。

○若者や女性にも選ばれる地域

1. 安定的な雇用創出や子育て支援等を推進したが、流出が継続

2. 0

地域社会のアンコンシャス・バイアス等の意識変革や魅力ある職場づくりにより、若者や女性が地方に残りたい、東京圏から地方に戻りたい／行きたいと思える地域をつくる。

○人口減少が進行する中でも「稼げる」地方 ～新結合による高付加価値型の地方経済（地方イノベーション創生構想）～

1. 企業誘致や産業活性化等を目指したが、連携や支援不足で伸び悩み（工場のアジア移転等）

2. 0

多様な食や伝統産業、自然環境や文化芸術の豊かさといったそれぞれの地域のポテンシャルを活かして高付加価値化するとともに、地域産品の海外展開などにより、自立的な地方経済を構築する。

○AI・デジタルなどの新技術の徹底活用

1. ICT活用やブロードバンド整備を目指したが、限定的

2. 0

AI・デジタルなどの新技術を徹底活用し、地方経済と生活環境の創生を実現する。GX・DXによって創出・成長する新たな産業の集積に向けたワット・ビット連携などによるインフラ整備を進める。

○都市と地方が互いに支え合い、人材の好循環の創出

1. 移住支援などで都市から地方への人の流れを目指したが、道半ば

2. 0

関係人口を活かし、都市と地方の間で人・モノ・技術の交流・循環・新たな結び付き、分野を越えた連携・協働の流れをつくる。


○地方創生の好事例の普遍化と、広域での展開を促進

1. 市町村で様々な取組が実施されたが面的な広がりに欠けた

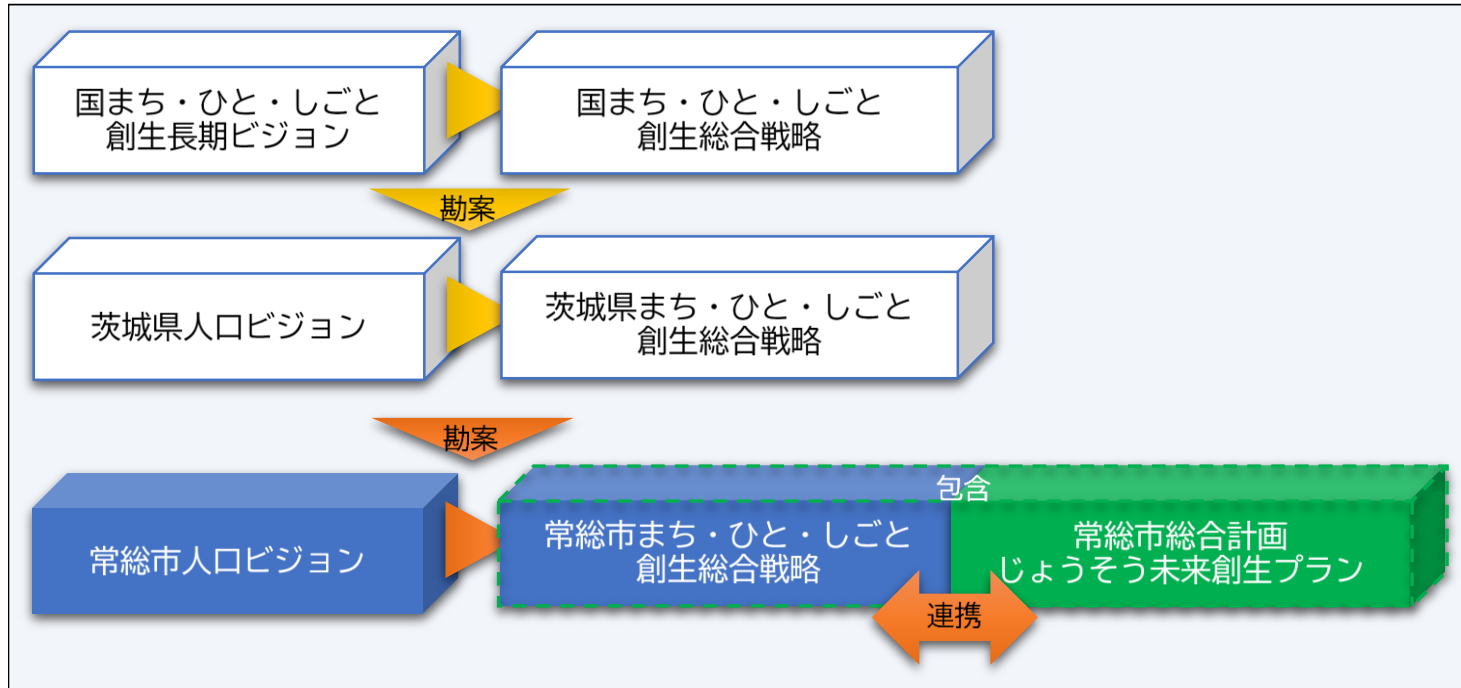
2. 0

産官学金労言士等による主体的な取組と、全国津々浦々で地方創生が進むよう、好事例の普遍化と広域での展開を促進（例：「広域リージョン連携」）。

第2期 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

国 第2期まち・ひと・しごと総合戦略	常総市第2期 まち・ひと・しごと総合戦略	国 デジタル田園都市国家構想総合戦略	国 地方創生2.0（基本構想）
<p>＜基本目標＞</p> <p>①稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする</p> <p>②地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れを作る</p> <p>③結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p>	 <p>＜基本目標＞</p> <p>①稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする</p> <p>②地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる</p> <p>③結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>④ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p>	<p>＜地方の社会課題解決＞</p> <p>①地方に仕事をつくる</p> <p>②人の流れをつくる</p> <p>③結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>④魅力的な地域をつくる</p>	<p>＜政策の5本柱＞</p> <p>①安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生</p> <p>②稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生～地方イノベーション創生構想～</p> <p>③人や企業の地方分散～産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生～</p> <p>④新時代のインフラ整備とAI・デジタルなどの新技術の徹底活用</p> <p>⑤広域リージョン連携</p>
<p>＜横断的な目標＞</p> <p>①多様な人材の活躍を推進する</p> <p>②新しい時代の流れを力にする</p>	<p>＜横断的な目標＞</p> <p>①多様な人材の活躍を推進する</p> <p>②新しい時代の流れを力にする</p> <p>＜新たな視点＞ 新型コロナウイルス感染症対応による新しい地方創生を実現する</p>	<p>＜国によるデジタル実装の基礎条件整備＞</p> <p>①デジタル基盤の整備</p> <p>②デジタル人材の育成・確保</p> <p>③誰一人取り残されないための取組</p>	

【じょうそう未来創生プランとの関係】



【期間】

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
じょうそう未来創生プラン後期基本計画	前期基本計画					後期基本計画					次期総合計画 2028～		
常総市総合戦略	～第1期			第2期			第3期			包含予定			

今年度の策定スケジュール（案）

	令和7年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
創生本部 (庁内)		5/2 第1回		7/2 第2回		9/12 第3回	10/31 第4回				2/2 第5回	2月中旬 第6回
部会 (庁内)		素案作成		事業施策検討						報告		
総合戦略会議 (外部組織)			6/26 第1回			8~9月 第2回						
パブコメ ・議会										中間 報告	パブコメ	全協 報告
				7/22 第1回			10/16 第2回	11/20 第3回			2/6 第4回	